

2019年度

事業報告書

自 2019年4月 1日

至 2020年3月31日

一般社団法人 日本自動認識システム協会

目次

1. 事業運営の総括	1
2. 2019 年度事業報告	2
2.1 広報および普及啓発事業	2
2.2 資格認定事業	4
2.3 国内市場動向調査	5
2.4 規格の立案および標準化の推進事業	5
2.5 部会・プロジェクト活動	5
2.6 研究開発活動	9
2.7 自動認識システム等に関する内外関連機関等との交流および協力	10
3. 運営体制の強化、構造改革の実施	11
3.1 企画運営プロジェクト	11
3.2 部会・プロジェクト連絡会の開催	11
4. 事業報告の附属明細書	11

2019 年度事業報告書および附属明細書

(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

1. 事業運営の総括

2019 年は、5 月 1 日に元号が平成から令和に変わり、新しい時代の幕開けを迎えた。日本経済は引き続き穏やかながらも回復基調にあり、企業収益や雇用情勢も高水準が続くなど経済の好循環が継続しているが、一方で台風 15 号や 19 号など度重なる自然災害の発生をはじめ、各業界における人手不足の深刻化、人口減少による国内市場の縮小傾向など、企業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある。

こうした社会経済環境の中、第 4 次産業革命 (Industry 4.0) により IoT、ビッグデータ、AI (人工知能)、ロボット等が本格的に浸透し始めている。政府でもこれらのデジタル技術を活用する「Society5.0」、「Connected Industries」の取り組みを活発化している。

当協会では、このようなデジタルテクノロジーの進化の中で、情報入力基盤として「自動認識」技術が担っていくとの位置付けで、この「自動認識」技術の普及啓発、調査研究、標準化を通じて業界の発展を図り、各省庁、業界関連団体との連携のもと、会員企業へのサポートに取り組んだ。

2019 年度、当協会では、(1)「会員サービスの向上」を基軸にした協会運営の継続と会員メリットの提供、(2)活動領域拡大への取組み、(3)事業推進の評価の実施と随時見直し、の三つの活動方針のもと積極的な事業活動を実施した。

普及啓発面では、自動認識システムの認知度を高め自動認識市場の発展・拡大に寄与することを目的に新たに「未来の AUTO-ID」プロジェクトを発足し、「自動認識総合展」においてテーマ展示を実施。自動認識技術の利便性と可能性を訴求した。また、自動認識技術者の育成強化として、「自動認識基本技術者資格認定講習会・試験」を従来の東京・大阪に加え、初めて福岡で実施した。また自動認識技術領域の拡大対応として、昨今急速に活用が進む画像認識分野への取り組みを開始すべく画像認識プロジェクトを発足した。

これらの事業推進においては、理事会、企画運営プロジェクトを中心に個々の事業の進捗を随時評価し、必要に応じて見直しや新たな取組みを図るなどのフィードバックを通じて成果の最大化を図った。

また、当協会の独自市場調査である「自動認識機器の市場動向調査」のアンケート結果では、2019 年(1～12 月)の自動認識市場の出荷金額合計は、2,526 億円となり前年実績 (2,460 億円) から 102.7%という結果となった。バーコードリーダはやや減少したものの、バーコードプリンタ、バーコードサプライ、RFID、バイオメトリクス、ソフトウェアはいずれも増加し全体でも堅調な伸びとなった。

これらの取組みを通じて協会運営を継続し、新たに 15 社の新規加入をいただき、協会活動の基盤拡大も実現できた。結果、事業収支は堅実に推移し、2019 年度事業計画に挙げた各分野の事業は計画通り実施された。

各取組みの概要は以下の通りである。

2. 2019年度事業報告

2.1 広報および普及啓発事業

(1) 第21回自動認識総合展の主催

2019年9月11日～9月13日の3日間、「東京ビッグサイト」にて、第21回自動認識総合展を開催した。今回は「コネクテッド・インダストリーズ～未来をつなぐ AUTO-ID～」を展示会キャッチコピーとし、自動認識技術とソリューション活用で多くのイノベーションを創り出すきっかけを提供し、本展示会が日本で唯一の自動認識関連の展示会であることを強く印象付けた。ゾーン展示として「モバイル&ウェアラブルゾーン」、「画像認識ゾーン」、「センサネットワーク」を設け、来場者の方々に自動認識の次のステージを身近に実感頂いた。

また、新たな取り組みとして「未来をつなぐ AUTO-ID～自動認識技術で変わる未来」コーナーを展示会場内に設置し、「自動認識で変わる未来」を「みせなか」、「いえなか」、「サプライチェーン」の三つの活用シーンで紹介し、多くの来場者に近未来の自動認識を体験いただいた。

展示会場内では、自動認識基礎講座と自動認識市場規模動向、第21回自動認識システム大賞受賞作品の発表等、多くの来場者に自動認識技術の最新動向を紹介した。

また、展示会と同時開催するセミナーでは、自動認識技術の「最新導入事例」や「最新技術動向」を紹介する自動認識セミナーを開催した。

さらに本年度は、同時期開催展として「測定機器展」、「総合試験機器展」、「地盤技術フォーラム」、「センサエキスポジャパン」と相互入場を実施し、例年のユーザ来場者に加え、様々な分野の方々にも来場頂き、見応えのある展示会となった。

(2) 第17回自動認識総合展・大阪の主催

2020年2月20日～2月21日の2日間、大阪市「マイドームおおさか」に於いて第17回自動認識総合展・大阪を開催した。また、マイドームおおさか8階会議室を会場として自動認識セミナーを同時開催し、関西地域における自動認識技術・ソリューションの普及促進に努めた。

(3) セミナーの開催

① 展示会セミナー

東京・大阪の両展示会において「BT Spice (Business&Technology Spice) 自動認識セミナー」と題し同時開催したセミナーでは、最近のトレンドや市場の変化を捉え、よりユーザ視点に立った自動認識技術ソリューションを各分野のテーマに、医療現場、画像認識、生産現場、音声認識、QRコードの活用事例等、ビジネス現場における自動認識技術を活用した事例等を多数紹介した。特に、東京ビッグサイトでの「第21回自動認識セミナー」基調講演では、『我が国製造業の課題と展望』を実施、特別講演では『電子タグ1000億枚宣言の背景と狙い・今後の展開』、『国内消費財サプライチェーンの効率化の研究開発』と題したセミナーセッションとパネルディスカッションを開催し、推進関係者の経済産業省、大手コンビニ企業、ベンダー企業の方々に登壇頂き、ディスカッションも実施。多くの方々に聴講頂き、自動認識技術の活用を検討されている潜在ユーザの来場促進と、各出展企業における出展効果を高めた。

③ 自動認識の基礎知識セミナー

当協会の自動認識技術の普及啓発活動の一環として自動認識の基礎知識を広く学んで頂くことを目的として、2018年度より開催している『自動認識の基礎知識セミナー』を引き続き開催した。開催形式は、当協会の会議室を会場とした「集合形式」と、各企業に協会講師を派遣する「講師派遣」の2つの形態で実施し、自動認識技術の普及啓発に努めた。本年度の結果は以下の通りである。

- ・集合形式 : 4回開催（4/24、6/26、10/18、12/12）、参加者 89社 107名
- ・講師派遣 : 8社（13回）参加者約 267名

④ JAISA フォーラム

当協会で行っている研究開発内容と成果を広く一般に周知すると共に、皆様に活用していただくことを狙い、昨年度に引き続き、自動認識総合展に合わせて「JAISA フォーラム」を9月11日に開催した。

フォーラムでは、当協会で行っているRFID関係2件、バーコード関係1件、バイオメトリクス関係1件、医療業界での自動認識技術の活用について1件、合計5件の研究開発内容とその成果等について発表し、71名（内非会員29名）に聴講いただいた。また、自動認識総合展会場には発表に関係するパネル5枚を掲示し、研究開発内容と成果の周知に努め、これらにより、当協会の知名度向上と業界啓発に繋げた。

(4) 自動認識システム大賞

自動認識関連の技術やシステムを用いた先端的且つ、その効果が極めて顕著な優れた作品を公募。業界有識者の厳正なる審査により、自動認識システム大賞1件、優秀賞2件、フジサンケイ ビジネスアイ賞1件、特別賞1件を選定し表彰した。併せて、自動認識総合展において各賞の内容紹介プレゼンとパネル展示を実施。また、本事業の成果を報道機関で発表すると共に、最先端導入事例として協会ウェブサイトおよび自動認識技術情報誌「JAISA NOW」にて紹介し、自動認識技術の啓発に努めた。

(5) 会報誌「JAISA」、自動認識技術情報誌「JAISA NOW」

協会事業活動の紹介記事を中心とした会報誌「JAISA」を季刊発行し、協会ウェブサイトに掲示した。また、9月に各部会活動、市場動向や最新の技術動向を紹介した自動認識技術情報誌「JAISA NOW」を発刊。「第21回自動認識総合展」、「第17回自動認識総合展・大阪」および関係団体主催の展示会場にて配布。会員および一般の方々に広く紹介し自動認識技術の普及・啓発事業に活用した。

(6) ウェブサイトによる情報提供

協会ウェブサイトは、自動認識総合展および併催セミナー、自動認識システム大賞、自動認識技術者資格認定試験、部会・プロジェクトの活動状況、官庁からの通知、標準化関連情報、

各種ガイドラインや自動認識システム導入事例集等、協会活動や自動認識関連技術動向に関する幅広い情報提供を行った。また、協会 Facebook ページにおいては、協会ウェブサイトとは趣を変え、写真や動画を活用した協会活動のリアルタイムな情報発信を行った。

また、問い合わせページに設置した「導入に関するご相談について」を通じて、自動認識技術の導入に関する相談を一般企業からも受け付け、情報提供を行った。

(7) ツール類の提供

① 高機能 JIS 向け「超精密テストチャート」の提供

2018 年度に引き続き、『JIS X 0527 (自動認識及びデータ取得技術—バーコードプリンタ及びバーコードリーダの性能評価仕様)』で規定しているバーコードリーダの読取性能試験で用いる超精密テストチャートの有償提供を継続実施した。

(8) 広報活動

当協会の認知度向上と活動内容広報のため、業界新聞や業界誌において広報情報の掲載を適宜実施した。新たに一般紙、「日経産業新聞」、「産経新聞」への広告掲載も行い広く一般へ自動認識の広報を行った。それらと共に会報誌「JAISA」・自動認識技術情報誌「JAISA NOW」、「JAISA フォーラム」や各部会で開催した講演会、セミナーあるいは社外講演を活用し、各部会・プロジェクト等での活動や、標準化活動における最新の活動成果等、積極的な情報発信を実施した。また、部会・プロジェクト活動の中で各報道機関向け広報発表を活用し、積極的な一般向け情報発信も実施した。

(9) 未来の AUTO-ID プロジェクトの発足と活動

自動認識技術に係る事業者（ユーザ・メーカ・SIer 等）に対して、「自動認識技術の活用事例の具現化」を体感できる展示を提供することで、自動認識システムの認知度を高め、自動認識市場の発展・拡大に寄与することを目的として、「未来の AUTO-ID プロジェクト」を発足した。本年度は、会員企業からなる実行委員会による展示企画、運営推進により、テーマ展示「未来につなぐ AUTO-ID～自動認識技術が変える未来～」を「第 21 回自動認識総合展」、「第 17 回自動認識総合展・大阪」に展示実施。シーン別に自動認識技術の利便性と可能性を訴求して来場者に好評を博した。

2.2 資格認定事業

自動認識技術者の育成・確保を図ると共に、その技術を広く社会に知らしめていくことを目的とする自動認識技術者認定登録を行うため、下記の日程にて講習および試験を実施した。

また、2019 年度は基本試験を福岡でも実施した。これにより、基本技術者資格認定者は 2,102 名、RFID 専門技術者資格認定者は 211 名、バーコード専門技術者資格認定者は 35 名（前回開催時まで）となった。

- | | | |
|-----------|------|------------------------|
| ・2019年7月 | 第36回 | 自動認識基本技術者資格認定講習・試験（東京） |
| ・2019年8月 | 第37回 | 自動認識基本技術者資格認定講習・試験（大阪） |
| ・2019年11月 | 第38回 | 自動認識基本技術者資格認定講習・試験（東京） |
| ・2019年12月 | 第39回 | 自動認識基本技術者資格認定講習・試験（福岡） |

2.3 国内市場動向調査

国内唯一の自動認識産業団体として、自動認識市場の市場動向の把握と、会員企業への情報発信を行うため、本年度も会員企業のみならず、非会員企業に協力を要請、出荷実績調査を実施した。各部会・委員会等から選出されたメンバーで構成する市場統計委員会が中心となり、2019年1月～12月までの1年間に国内市場に出荷された各種自動認識機器、消耗品（RFIDタグ等）をアンケート形式で調査、分析し2019年における市場規模を算出。併せて2020年の市場動向についての数値予測を行った。

また、昨年引き続きコンシューマ市場についての自動認識機器搭載状況も推測して掲載している。

2.4 規格の立案および標準化の推進事業

(1) ISO/TC122/WG12 標準化推進

ISO/TC122（包装）/WG12（サプライチェーンへの物流技術の適用）の国内対策委員会としてISO/TC122/WG12国内委員会を引き続き開催し、バーコード、二次元シンボル、RFID等の自動認識技術を物流に活用するための関連規格の審議を行うと共に、ISO/TC122の国内審議団体である公益社団法人日本包装技術協会と連携・協力し、国際標準化活動を行った。

(2) ISO/IEC JTC1/SC31 標準化推進

ISO/IEC JTC1/SC31（自動認識及びデータ取得技術）/WG1（データキャリア）、WG2（データストラクチャ）、WG4（RFID）、WG8（自動認識規格のアプリケーション）の国際標準の策定に向けて一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）との連携・協力活動を行った。

また、JEITAが主催するSC31 WG1 専門委員会及びWG 合同委員会に委員として参加し、自動認識技術に関連した各種ISO/IEC規格及びJIS規格の検討、コメント対応、投票意見提出など審議に参加した。

(3) ISO/IEC JTC1/SC37 標準化推進

バイオメトリクスに関係するISO/IEC JTC1 SC37に参加した。また、バイオメトリクスに関連する標準の検討状況の国内周知と標準の普及・啓発を図るため、バイオメトリクスに関連する標準化団体の活動内容および状況について標準化セミナーを実施した。また、当協会ウェブサイトによる情報提供などを行った。特に今年度は、本活動はJTC1技術委員会、SC37専門委員会、SC37/WG5小委員会と連携して、新精度評価方式の提案活動を実施した。

2.5 部会・プロジェクト活動

部会・プロジェクトは、会員企業第一主義を念頭に、活動を通して会員に事業に役立つ“付加価値”を提供するため、仲間作りの場の提供、業界最新情報や関連省庁の最新情報の提供や普及啓発活動並びに市場拡大のために解決すべき業界共通課題の発見およびその解決への取り組みの場としての活動に取り組んだ。各部会・プロジェクトの各グループが主催する会議は、基本的に1～2ヶ月に一回程度開催した。

2.5.1 部会・プロジェクト活動全般

(1) 会員への業界情報提供と会員相互交流・親睦活動

① 講演会・セミナーの開催

会員相互の仲間作りの場や業界最新情報や関連省庁の最新情報を提供するため、情報交流会を開催し、市場ニーズやユーザの導入事例、製品紹介、技術・標準化動向、あるいは当協会で行っている研究開発事業の活動内容や成果に関する講演会を開催した。

② 現地視察研修会の開催

各部会・プロジェクトのメンバーを募って自動認識技術を導入し成果をあげているユーザを訪問、実施状況や効果の説明や、相互に意見交換・研鑽を行う現地視察研修会を7回実施し、自動認識技術を活用した物流センターおよび製造工場、企業の研究施設など7施設を訪問し、自動認識技術の活用現場における状況及び効果の把握や自動認識導入ユーザとの意見交換を行った。

(2) 市場課題の解決に向けた活動

① 課題抽出への取組みの実施

普及啓発活動並びに市場拡大のために解決すべき業界共通課題の発見のため、講演会・セミナーの場を活用、また、各種グループ会議や意見交換会等を開催して、各部会・プロジェクトのメンバーからの課題提起を促すと共に業界に共通する課題を探索・認知する活動を行った。

② 業界課題の解決に向けた活動の実施

課題抽出への取組みの結果、探索・認知した業界に共通する課題の解決のため、会員企業を中心にして各部会・プロジェクトの中に設置した技術グループや作業グループにおいて活動を行った。また、関係省庁や関連団体への積極的な働きかけを通して関係者との協力関係を醸成し、受諾事業や当協会ですべて実施する研究開発事業に繋げ、会員外の標準化団体やユーザ団体、関連企業とも協力・連携して課題解決に結びつけるための活動を行った。

(3) 技術分野横断活動

① 部会・プロジェクト連絡会の開催

部会・プロジェクト連絡会を6月と12月に開催し、部会・プロジェクト間の情報共有を行い、各活動に役立てていただくと共に、相互協力が必要な活動に繋げるため、各部会・プロジェクトの活動内容や問題意識とその解決への取組み、また連携の必要な課題の共有と意見交換を行った。また、フリーディスカッションにおいては、今後の当協会の活動改善の一助とするため「当協会に期待すること」「こうあれば良いのと思うこと」をテーマとして意見交換した。その意見に基づき、活動の改善や協会としての新たな取組みを検討した。

② 合同部会（自動認識システム大賞受賞作品紹介）の開催

会員企業の皆様に自動認識システム大賞受賞作品の内容を一度にお聴きいただく機会提供のため、9月に合同部会を開催し、自動認識システム大賞受賞作品の内容を会員の皆様に聴講

いただいた。

③ 部会開催情報の各部会・プロジェクト間共有の実施

他部会所属の会員も部会セミナーに参加できるようセミナー開催情報を必要に応じて各部会で共有した。

(4) 会員外への普及啓発活動

① 一般関係者への情報提供活動の実施

業界の発展に寄与するため、一般関係者への情報提供と啓発のための活動を実施した。国際規格、国内規格、導入事例、規制緩和の最新動向、当協会の研究開発事業等の事業活動内容を必要に応じてユーザや関係団体等の会員企業以外に対しても、「JAISA フォーラム」を活用して、研究開発内容と成果を自動認識市場に周知すると共に、依頼講演への対応、雑誌記事への執筆投稿、あるいは当協会ウェブサイトや Facebook などの SNS やメールマガジン、広報発表などを活用して情報発信を行った。

② 業界啓発のための活動の実施

各部会で業界啓発のための活動に取り組んだ。バイオメトリクス部会では、今年度より技術調査を目的に見学会を 2 回実施、「生体認証ビジネス実践セミナー2019」を 11 月に開催し、ビジネスへの活用提案を行った。また、市場啓発および資格試験教科書として活用するため、生体認証技術の啓発書である「よくわかる生体認証」を 2019 年 4 月に改訂した。

また、システム部会では、自動認識技術の普及、市場拡大のために、自動認識技術の活用事例を一般の方に紹介している自動認識システム事例集を更新した。

③ JIS X 0527 普及セミナーの開催

2017 年度に規格制定された『JIS X 0527（自動認識及びデータ取得技術－バーコードプリンタ及びバーコードリーダの性能評価仕様）』の規格説明等の周知活動として、2019 年 2 月の第 1 回普及セミナーに引き続き、セミナーを 4 回開催した。次年度以降も継続して定期的な開催を実施する。

④ バーコード関連カタログ用語集の改訂

一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）にて作業中の JIS X 0500 の改訂作業の完了に合わせ、当協会 Web サイトに掲載している「バーコード関連カタログ用語集」の改訂作業を実施予定であったが、JEITA での作業が完了せず今年度は実施できず。

(5) 新分野開拓活動

① 画像認識プロジェクト

画像認識に関する活動を、バーコード、RFID および生体認証と並び、自動認識技術の普及・促進活動の柱の一つとすべくプロジェクトとして、活動を開始した。まずは、プロジェクトのゴールとして、流通、製造、サービスなどの各分野の課題に対する

適切なソリューションを検討する指針として、画像認識による解決レシピ（ガイドライン）の作成を目指すこととし、その為テーマ別のワーキンググループを組織し、画像認識技術に関する調査を行うとともに、画像認識技術を応用する事業に関わる会員企業の共通課題を洗い出した。併せて画像認識技術の普及・促進の為、会員各企業との情報共有にも注力して活動した。

2.5.2 各部会・プロジェクト活動

(1) 部会・プロジェクト合同活動関係

- ・部会・プロジェクト連絡会 : 2回開催（6月、12月）
- ・合同部会（自動認識セミナー） : 1回開催（9月）
- ・JAISA フォーラム : 5件紹介（9月）

(2) バーコード部会

- ・バーコード部会マーケティンググループ幹事会 : 3回開催
- ・バーコード部会情報交流会 : 5回開催
- ・見学会 : 1回開催
- ・部会内セミナー : 5回開催

(3) RFID 部会

- ・RFID 幹事会開催（メール審議を含む） : 6回開催
- ・RFID マーケティング会議開催 : 6回開催
- ・RFID 技術グループ開催 : 5回開催
- ・ARIB の電子タグ作業班打ち合わせに参加 : 3回開催
- ・アプリケーション技術グループ : 3回開催
- ・見学会 : 1回開催
- ・920MHz 帯 RFID 無線局申請ガイドラインの作成
（12月末にホームページにアップ済み）

(4) バイオメトリクス部会

- ・幹事会（活動方針、計画検討） : 5回開催
- ・意見交換会（意見交換と業界課題抽出） : 4回開催
- ・バイオメトリクス部会 総会（活動審議） : 2回開催
- ・バイオメトリクス部会 講演会（市場情報共有） : 2回開催
- ・見学会（市場啓発） : 2回開催
- ・バイオメトリクス関連 標準化セミナー（市場啓発） : 1回開催
- ・生体認証ビジネス実践セミナー（市場啓発） : 1回開催
- ・社外講演会（研究開発成果の周知と市場啓発） : 2回開催
- ・社外雑誌記事執筆（市場啓発） : 1件
- ・性能評価技術グループ（業界課題解決の取組み） : 9回開催

(5) システム部会

- ・システム部会幹事会 : 3 回開催
- ・システム部会情報交流会 : 4 回開催
- ・見学会 : 2 回開催
- ・自動認識システム導入事例集の情報更新 : 1 件

(6) 医療自動認識プロジェクト

- ・医療自動認識プロジェクト会議 : 6 回開催
- ・プロジェクト内セミナー : 5 回開催
- ・見学会 : 1 回開催
- ・医療用医薬品新バーコード対応スキャナー一覧改訂 : 1 件

(7) 画像認識プロジェクト

- ・プロジェクト立上幹部会 : 4 回開催
- ・情報交流会（WG 活動報告、セミナー開催など） : 4 回開催
- ・プロジェクト幹部会（プロジェクト運営討議） : 1 回開催
- ・WG 会議
 - 技術調査 WG（画像認識技術のユーザ事例調査） : 2 回開催
 - 技術適用 WG（画像認識技術適用分野の検討） : 2 回開催
 - ガイドライン検討 WG（画像認識技術利活用の検討） : 2 回開催
 - 交流推進 WG（外部団体連携、セミナーのテーマ等） : 1 回開催
- ・見学会 : 1 回開催

2.6 研究開発活動

研究開発活動は、市場創造や産業育成のための課題や阻害要因を解決するためと位置付け、会員企業をはじめ、関係組織・団体等とも連携して活動した。

また、自動認識市場の活性化による会員企業のビジネス拡大に貢献するため、事業の成果は部会を通じて、その成果について会員企業を含め広く一般に共有した。

(1) バーコード関連

① JIS X 0527 の国際標準化

『バーコードプリンタ及びバーコードリーダーのランク付性能評価仕様』に関する国際標準化について、2019 年度の国際標準化テーマとして経産省の受託事業として実施した。

事業計画通り、事業年度内に CD（Committee Draft）投票の手前まで進んだ。

(2) RFID 関連

① 汎用 RTI（リターナブル輸送容器）用大容量電子タグ（RFID）に関する国際標準
今年度が 2 年目の事業で、3 ヶ年計画、目標は ISO/TR の WD 提案になる。

- ・ISO/TR22251（金属製リターナブル輸送容器用 RFID のアプリケーションガイドライン）を生かし、汎用 RTI 用大容量電子タグを使用した国際物流におけるテクニカルレポートを作成

し、ISO に提案する。

- ・大容量電子タグ内ユーザエリアのデータフォーマット、内容、交換方式案を作成する。

② 物流効率化に向けた RFID の母国語利用等に関する国際標準化

RFID のサプライチェーンへの適用規格（ISO/IEC 1736x シリーズ）を適用して、サプライチェーン管理に RFID を適用するための具体的な検討を行っている産業界からの要望に基づき、RF タグ内に書き込むデータ形式を拡張することで、RFID を活用してサプライチェーン管理の効率化を実現しやすくするための環境整備に向けた国際標準化を継続して実施した。

③ 陸上移動局「RFID 構内無線局（1W）の構外利用に関する新制度」の普及活動

2019 年 3 月 27 日、構外でも使用することができる陸上移動局が公布、施行され制度化が完了したことを受け、会員各位に法令の詳細説明を実施すると同時に、新たな RFID アプリケーションの普及に寄与するための活動を推進した。2019 年 12 月に「920MHz 帯 RFID 無線局申請ガイドライン（Ver1.0）を公開した。

(3) バイオメトリクス関連

① 生体認証精度評価を容易とする精度評価方法に関する国際標準化

キャッシュレス決済の拡大に備え、精度評価の評価コストに起因する実施困難性を低減するために低コストで実施可能な精度評価方法を確立することを狙って研究開発を進めた。大規模サンプルによって算出される精度を、より少ないサンプル数で推定する新しい精度評価方法を ISO/IEC JTC1/SC37/WG 5 で国際標準化することを推進した。

特に、今年度は新しい精度評価方法の検討ならびに実証データ収集と適用性を確認、国際動向調査、ロビー活動と国際標準原案の検討を行い、1 月の国際会議で NewWorkItem 提案することの合意を得た。

なお、実施にあたっては、日本の代表的な生体認証装置ベンダー（富士通株式会社、株式会社日立製作所、日本電気株式会社）各社ならびに希望するベンダー各社の絶大な協力を得て以下の活動に取り組み、経産省の受託事業として実施した。

- ・新しい認証性能評価方法のフィージビリティの調査
- ・認証性能評価方法に関する国際動向の調査
- ・新しい認証性能評価方法の国際標準化提案戦略の策定

2.7 自動認識システム等に関する内外関連機関等との交流および協力

関係省庁や団体の活動に積極的に協力・参画し、市場ニーズ、技術トレンド、標準化動向、国の施策などの情報収集ネットワークを構築、維持することで、当協会が取り組むべき新領域の情報を掴むとともに会員企業に的確な情報提供を実施した。

(1) 関連省庁の指導および産業育成計画や行政施策の把握

経済産業省をはじめ、総務省等関係省庁や関係諸団体との積極的な交流、情報収集により自動認識関連情報を迅速に入手し会員企業への情報提供に努めた。また、関係省庁からの会員企業等

への指導・行政施策情報など公的機関からの周知情報は、適宜会員企業の連絡担当者宛に情報配信し、会員企業への情報共有に努めた。

(2) 産業団体、標準化団体等との交流

公益社団法人 日本包装技術協会、一般社団法人 電子情報技術産業協会、一般財団法人 流通システム開発センター等をはじめとする関連団体が行う標準化、規格作成等に委員・オブザーバ等として積極的に参画し、規格策定を支援した。また、物流、包装関係諸団体との情報交流も実施し関係構築と、自動認識関連の普及啓発を実施した。

(3) 研究開発関連団体との連携

国立研究開発法人 産業技術総合研究所や大学研究部門との交流を図った。特に、バイオメトリクス関係では、日本のバイオメトリクス産業の状況を学会に周知し、JAISAのプレゼンスを向上するため、電子情報通信学会のバイオメトリクス研究会のシンポジウムの開催に協力すると共に JAISA の研究開発成果について講演した。また、今年度のテーマである精度評価の研究開発では、数理統計研究所の極値統計専門家と連携し、新方式のブラッシュアップを行った。

3. 運営体制の強化、構造改革の実施

当協会が時代の変化に的確に対応し、永続的に自動認識業界の発展を牽引し、貢献できる運営体制の強化に努めた。

3.1 企画運営プロジェクト

理事会より迅速に協会運営全般を評価する事と、事業運営を的確に判断する目的で発足した当プロジェクトを2019年度も継続して開催した。(12回開催：毎月第2火曜日開催)
また、各 KPI レビューを確実に実施し当協会の運営全般について検討することで理事会運営を支援した。尚、次年度も継続して当プロジェクトを推進していくこととした。

3.2 部会・プロジェクト連絡会の開催

会員企業とのコミュニケーションを通じた市場ニーズの把握と会員企業へのメリット追求と、各部会・プロジェクトにおける情報交流と意思疎通を図るため、部会長、副部会長をはじめとした部会・プロジェクト役職者と当協会役付理事及び職員との「部会・プロジェクト連絡会」を開催した。(2回/年)

4. 事業報告の附属明細書

2019年度事業報告には「一般社団法人および一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。